

学校におけるプロジェクトの実施方法

「生きる 勇気と 力と 夢を」
—かかわり合い 学び合って たくましく生きる栄っ子の育成—

1 プロジェクトの概説

1986年（昭和61年）に、「生きる 勇気と 力と 夢を」という校訓が作られた。この校訓には、毎日の学校生活を通して、子どもたちに困難を克服し、さらに発展するための勇気、力、夢を育みたいという願いが込められている。そして、子どもたちに生涯にわたって、この校訓を生きる拠り所としてほしいと考えている。本校は、約30年も前からESDの精神が盛り込まれた校訓の下で、教育活動を実践している。

ESD推進にあたり、サブタイトルを「かかわり合い、学び合って、たくましく生きる栄っ子の育成」とした。子どもたちは、学校や地域の「人・もの・こと」と積極的にかかわることで様々な課題を見いだす。その課題を解決する過程で得られた知恵や実践力が、人生をたくましく生きていくための力となっていくと考える。そこで、全教職員で教育計画を見直し、ESDカレンダーを作成して、教育活動に取り組む。本校では、特に、国際理解学習、福祉体験学習、防災学習を中心として、子ども一人一人に持続可能な社会の担い手としての素地を育てたいと考えている。

2 プロジェクトの目的

本校では、国際理解学習でコミュニケーション能力・表現力の向上を図り、福祉体験学習で共生の心と倫理観を含めた価値的なものの見方や考え方を育て、防災学習で地域社会の一員としての自覚や実践力を養いたい。

(1) 国際理解学習

教科の学習等で言語活動の充実に取り組み、他の意見や考えを尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成や表現力の向上を図る。そして、国際理解の基礎となるコミュニケーション能力の素地を養う。

- ・朝の活動の時間を活用した「お話タイム」の実践
- ・話し合い活動を重視し、共に学び合い自らを高め合うことのできる授業の実践
- ・「英会話」活動の充実と発展

(2) 福祉体験活動

誰もが人として幸せに生きる社会を希求することが、福祉の基本であると考えている。福祉について真剣に学び、自分たちにできることを考え、活動することで、将来の福祉社会を支える意識を子どもに育てたい。

- ・総合学習「福祉について考えよう」・「共に生きる」の実践（5年生）
- ・総合学習「レッツゴー栄チョコボラ隊」の実践（6年生）

(3) 防災学習

自分の命は自分で守る意識を育て、助け合い、共に生きていこうとする実績的態度を育成する。

- ・避難訓練
- ・総合学習「学校・校区の防災施設調べ」（4年生）
- ・総合学習「そのときどうする？」（5年生）

- ・校区防災訓練への参加

3 プロジェクトの実施

本校では、「かかわり合い、学び合う」の視点に立ち、E S Dの目的を「友達との学校生活、地域の人々の生活や行事・文化などに触れる体験を通して、友達や地域の人々とかかわりながら自らを高め、生涯にわたり持続可能な社会づくりに寄与できる資質や能力の基礎を育てること」ととらえている。

他とかかわり合うためには、コミュニケーション能力・表現力が必要である。本校では、「お話タイム」において、友達の話をしっかり聞く態度、自分の考えをわかりやすく伝える能力の育成に努めている。また、各教科の授業では、話し合い活動を組み込み、子どもたちが自分の考えをしっかりともって課題解決のために議論できる力を培う。そして、児童会活動や学校行事、生活科や総合的な学習の時間での体験活動を通して、授業で培われた能力を確かなものにする。とりわけ、生活科や総合的な学習の時間では、地域を学びの場として積極的に活用する。あわせて、子どもたちに、地域の行事への参加を呼びかける。これらの学習や活動を通して、子どもたちは友達や地域の人々と深い絆を築き、社会の一員として地域社会に貢献できる人材としての資質を培っていく。

そのために、以下の活動を設定し、実践している。

(1) 国際理解学習での学び

国際理解につながる学習を計画し、個々の人格の発達や人間性を育む

・朝の活動の時間を活用した「お話タイム」の実践（全学年）

教師や児童の提案する話題について、各学級で自由に話し合いを行う。話し合いの基礎となる話形の習得や自分の思いをわかりやすく伝える力、友達の話真剣に聞く態度を養う。

・話し合い活動を重視し、共に学び合い自らを高め合うことのできる授業の実践

各教科・領域において、話し合いによる課題解決の場を設定し、自分の考えをもち、思いを伝えたり友達の考えを聞いたりしながら、自分の考えをより確かなものにしたたり、高めたりする。

・「英会話」活動の充実、発展（3年生～6年生）

本校では、ALTやスクールアシスタント、英語ボランティアの協力を得て、「英会話」活動にも力を入れている。日常生活の具体的な場面を想定して、子どもたちは身近なことや自分のことを相手と伝え合い、

英語でのコミュニケーションを楽しんでいる。発展学習として、5年生では、スカイプを利用してオーストラリア・メルボルン市の小学生と交流した。6年生では、奈良・京都への修学旅行で外国人観光客に英語でインタビューすることで、多くの国の人々と交流を図った。将来、子どもたちが国際社会で活躍できる素地が養われることを期待している。



国語の授業 6年生



オーストラリア・メルボルンの小学生と



英語でインタビュー

(2) 福祉体験学習での学び

校区にある福祉施設（王寿園）への訪問や障害のある方の講話、図書館ボランティアの方の話聞くなど、身近にできる体験を通し、共生の意識や自分たちにできるこ

とを考え実践する姿勢を育てる。

・総合学習「福祉について考えよう」・「共に生きる」の実践（5年生）

福祉について学習した後、校区にある養護老人ホーム（王寿園）を尋ね、お年寄りと交流する。お年寄りに喜んでもらえる歌やゲームを班ごとに考え、実際にふれあう中で、高齢者に対する思いやりの心を育む。また、障害のある方を招き話を聞くことで、障害のある方たちも地域社会で自分の役割を果たしながら共に生きていることを確認し、協力して住みよい社会を作ることの大切さに気づく。

・総合学習「レッツゴー栄チョコボラ隊」の実践（6年生）

本校には、クラブ活動の外部講師、図書館ボランティア、おやじの会など様々な形で子どもたちを支援してくれるボランティアの方たちがいる。これらボランティアの方たちは、自分たちのできることで子どもたちの学びに貢献したいという共通の思いがある。

「レッツゴー栄チョコボラ隊」の活動では、図書館ボランティアの方を招き、日ごろの活動の様子やボランティアをしている思いなどの話を聞く。その思いに触れ、子どもたちは、何か人の役に立つ活動はできないかを話し合い、実践をする。小さな活動ではあるが、人の役に立つ喜びを感じ、奉仕の精神を養うよい機会となっている。

(3) 防災教育での学び

校内の避難訓練や防犯訓練を通して、自分の命は自分で守る意識を高める。また、校内や地域の防災設備を調べ、防災に対する備えの大切さを考える。さらに、地域の人々と交流をしながら町内の防災活動に取り組み、地域の一員としての自覚や地域を愛する心を育む。

・総合学習「学校・校区の防災施設調べ」（4年生）

校内にある消火器や火災報知器などの数や位置を調べ、火災等に備えるシステムがあることを知る。また、自分が住む町の消火栓をはじめとする防災設備や防災倉庫などを確かめ、地域の防災体制について学ぶ。

・総合学習「そのときどうする？」（5年生）

震災を想定して、通学路や地域の公園などを安全の視点で見直し、地図に整理する。危険箇所を確認し、災害への備えや災害時の対応について話し合い、まとめる。

・校区防災訓練への参加（全学年）

校区防災訓練に積極的に参加するように呼びかけている。訓練では、第二次避難所となる小学校に地域の方たちと一緒に避難する。避難経路の確認や起震車体験、消火器を使った消火訓練などを行う。4・5年生は、総合的な学習の時間の成果を地域住民に発表する。これらの活動を通して、子どもたちは地域の一員としての役割を果たそうとする自覚を高めることができる。



王寿園のお年寄りとの交流



避難完了町別に集合



地域の人たちと一緒に救命救急訓練



子どもたちの作成した安全マップ

(4) 活動を進めるためのE S Dカレンダー (5年生の例)

国際理解学習、福祉体験学習、防災学習の視点でE S Dカレンダーを作成し、総合的な学習の時間に活動を行っている。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----|--|----|----|--|----|-----|---|-----|----|----|----|
| 5年 | 福祉について考えよう | | | 外国の小学生と交流しよう | | | 共に生きる | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・王寿園を訪問しよう ・学んだことをまとめよう ・福祉のポスターに挑戦 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア、メルボルン市を調べよう ・自己紹介プロフィールを作ろう ・スカイプで交流しよう | | | <ul style="list-style-type: none"> ・車いすダンスの人と話そう | | | | |
| | 東海地震が起こったら | | | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地震の仕組みを知る ・地震が起きた時のために ・防災マップを作ろう ・校区防災訓練へ参加 | | | | | | | | | | |

4 使用する教材

私たちは、以下に示す文部科学省や愛知県教育委員会、豊橋市教育委員会が発行または管理する刊行物やウェブ上の資料を教材として活用している。

「小学校キャリア教育の手引き」 文部科学省 平成23年5月 (WEB版)

「かがやくとよはし」 平成23年4月1日発行 豊橋市教育委員会

「キャリア教育推進の手引き」「小中学校9年間を見通したキャリア教育」

愛知県教育委員会義務教育課(WEB版)

「キャリア教育ノート」夢を見つけ夢をかなえる航海ノート 愛知県教育委員会(WEB版)

「言語活動の充実に関する指導事例～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～」

【小学校版】文部科学省

5 プロジェクトに対する児童の理解と姿勢の評価方法

児童の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- ・児童の諸活動における成果は、事後のまとめや感想などから把握し、評価する。
- ・学習や活動のまとめを、授業、学習発表会、作品展などの場で発表させる。また、学年通信や学校のホームページで地域へも発信する。このような場を通して、子どもの関心・意欲・態度などを観察し、評価する。
- ・上記の評価とあわせ、学校評議員を通じた地域からの評価、学級懇談会等での保護者からの聞き取り、全保護者を対象としたアンケート調査などの結果から、E S Dの活動計画の見直しと改善を図る。

(本学校を代表して、ユネスコA S Pの参加申請をし、少なくとも2年間以上は上記概要にそってA S Pに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年A P Sコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動レポートを提出します。)

2014年3月5日

日付

校長名：小出 志郎

役職：校長

学校名：豊橋市立栄小学校